

【議事録】		作成
令和7年度 第1回 こども部会		松永
日時	令和7年6月18日（水）10:00～	
場所	広陵町総合保健福祉会館（さわやかホール）	
出席者	高橋・伏見（葛城社協）、秋本（ふわら）、大竹（もちつもたれつ）、粕谷（高田社協）、江口（香芝社協） 中川・小野（しぇ～く）、江口・家村（葛城こ若）、西口・辻・越智（高田市）、河股（香芝市） 能海・渡邊（葛城市）、原田（西和養護）、林・小細（愛の集い）、河内（どんぐり）、井上・松永（広陵町） *順不同・敬称略*	
次第	内容	
会長あいさつ	第1回こども部会の次第について説明。 *奈良県手をつなぐ育成会より、「親の会 会員募集のお願い」 「親の会」会員数減少と高齢化のため、存続が危ぶまれる可能性がある。障がい者とその家族を支えるためにも必要な会であるため、部会参加者が関わるケース方に「親の会」の活動を周知して欲しい。	
内容	<p>*参加者自己紹介</p> <p>*児童発達支援の事業所説明会について 昨年度より、開催に向けて協議を行ってきた児童発達支援事業所説明会について、事務局間での協議内容の報告行った。 (昨年協議内容の振り返り)</p> <p>○開催目的 保護者・利用児への情報提供と、事業所同士のつながりの場を提供する。 児童発達支援を利用する幼児の保護者の多くは、初めての利用であることがほとんどである。 また、関係機関から突然療育を勧められ、戸惑っている保護者も多くいる。そのような保護者を主に対象とし、「保護者自身が事業所と繋がり、保護者の目でどのような事業所か判断する機会を設けたい」との思いで事業所説明会を発案した。 また事業所間の交流を行うことで、各事業所の療育内容が相互に高まることを期待している。 (今回報告内容)</p> <p>○開催場所について 開催場所は広陵町中央体育館 アリーナで行う。当初はさわやかホールを予定していたが、管内の事業所へ参加希望調査を行ったところ想定よりも多くの事業所が参加したいと回答してくださったため、体育館へと変更した。 なお、今回はあくまで希望調査であり、参加申し込みは今後改めて行うこととする。</p> <p>○開催日について 開催日は11月14日を予定している。また、説明会開催日前日に参加事業所に向けて当日の注意事項・禁止事項の説明や、説明会に使う物品搬入を行う。 昨年度より10月半ばから11月に説明会を行いたいと協議しており、2日連続で予約が可能な日程が11月13日、14日であったため会場は仮押さえ状態である。</p> <p>○準備物、周知方法等 タイムスケジュールや周知用のパンフレットの作成については、参加事業所数が確定後の第2回こども部会内において、部会員とともに考えていきたい。参加申し込みは7月22日頃を〆切として、Google フォームで行う予定である。パンフレットには参加事業所の療育内容や送迎の有無、職員配置等を示したい。当日参加できない事業所についても事前に各事業所のパンフレットを広陵町社会福祉課まで持参いただき、会場に掲示する予定である。</p> <p>*質疑応答 ・午前午後に分けて開催する場合、両方参加したい人は一度帰宅する必要があるのか。 待機室の解放はあるのか。 →参加する事業所数により開催形態を決めるため、現在は未定である。 ・中央体育館へのアクセスについて。車以外の交通手段はあるのか。 →広陵元気号や「のるーと」というローカルバスがある。近鉄高田駅からも出ており、町民以外でも利用可能である。 ・事業所説明会参加〆切後に立ち上げた事業所は参加できるのか。 →円滑な運営と公平性担保のため、〆切後の参加申請は認めない。 ・イベントの周知方法について、何か決まっていることがあれば知りたい。 →こども関係課・保健センターの窓口や保育所等に配布することを想定している。 ・タイムスケジュール案の中にある事業所PRタイムについて、1事業所3分で計30分間を想定されているが、時間が足りないようと思う。 →参加事業所数が固まっていないのでなんとも言えないが、開催時間中に収まらない場合は各自治体の中で何組まで、と制限をかける可能性がある。 ・今回児童発達支援に限る説明会とのことだが、来年以降も続ける予定か。 それとも来年は放課後等デイサービス説明会を開く予定か。 →今後の展望については、今年の結果次第である。来場者数やアンケートの結果を考慮し、ニーズに合った説明会にしていきたい。</p>	

*その他意見

- ・事業所としてもネット上にたくさん情報を出している。わざわざ足を運んでもらっても、それ以上に出せる情報は無い。どのようなニーズがあるのかわからない。
- ・今回自立支援協議会として説明会を開くことで、協議会お墨付きの事業所と認識されるリスクがある。どんな療育を行う事業所なのか理解するため、まずは事業所と相談員の交流会を開いてはどうか。
- ・未就学児童の保護者を対象にすることは、療育に通わせたいのかそうでないのかわからない(診断や通所に否定的である可能性がある)。つまりは開催してもニーズが不透明である。事業所連絡会に切替え、療育内容を高める機会にシフトチェンジしてはどうか。
- ・容易に児童発達支援と繋がることは、就学してからも福祉サービスに依存する要因となるリスクにもなる。簡単に福祉サービスに繋がる現状を考え直す機会を作りたい。
- ・支給決定権者である行政として支給決定件数が増加している現状を痛感している。また、保護者から事業所を紹介して欲しいと言われるが、行政から勧めることもできないので、説明会はとても意義があると思う。
- ・福祉サービスを利用していた子どもの保護者としては、当時こんなイベントがあれば良かったと感じる。
- ・様々な事業所のチラシが同じ場所で入手できることも魅力的である。
- ・児童の進学先について「事業所から言われたから」と、養護学校を希望される方が増えている。また、事業所での過ごしが正解=学校でもこのようにして欲しい、と要望される方も多い。養護学校と事業所・相談支援員が繋がり、お互いのことを知る機会が欲しい。

*部会長まとめ

- ・今回出た意見をまとめ、実施内容を再検討していく。

次回

令和7年8月20日(水) 10:00~